

HITACHI エンタープライズサーバ EP8000 シリーズ マシンコード来歴

EP8000 POWER7 720 (8202-E4C) / 740 (8205-E6C) ファームウェア変更内容と来歴

	変更内容
AL740_167_167	<p>Impact: Availability / Security Severity: SPE</p> <p>全てのシステムに影響するシステムファームウェア変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 投機的実行機能持つ CPU の脆弱性(CVE-2018-3639)をつく攻撃に対するセキュリティ対策を追加しました。 投機的実行機能やアウトオブオーダー実行機能を持つ CPU の脆弱性をつく攻撃に対するセキュリティ対策を追加しました。 VIOS 環境でファブリック障害がある Fibre チャネルに接続されたディスクからブートした時に、適切なエラーログを出力せずにブートに失敗する不具合を修正しました。 ライブパーティションモビリティを設定している場合に、移行に失敗する不具合を修正しました。 装置起動時に、PCI アダプタが動作不可となる問題を修正しました。装置の再起動により回復可能です。 Active Memory Sharing(LPAR 間で使用するメモリを共有する機能)を設定した装置で、ダンプ採取に失敗する場合がある不具合を修正しました。 HWMC を接続しない構成で保守員によるハードウェアダンプの採取に失敗する不具合を修正しました。 HWMC からのパーティション操作中に、HWMC からサーバの状態管理が出来なくなる不具合を修正しました。この不具合は、サービスプロセッサに複数のエラーが採取されている時に発生しやすい傾向があります。 サービスプロセッサと HWMC 間を DHCP でネットワーク接続する時、エラー(SRC B1818A0F)を誤検出する不具合を修正しました。 HWMC とサービスプロセッサ間のネットワークに障害が発生した後、装置に 2 台目の HWMC を認識させることができない不具合を修正しました。AC 給電の OFF/ON により回復可能です。 サービスプロセッサで検出された一部のエラーログが、OS に報告されない不具合を修正しました。 HWMC でのパーティション削除操作に失敗する不具合を修正しました。不具合発生時には、エラーコード 4000E002 とメッセージ "...insufficient memory for PHYYP" が表示されます。
AL740_156_042	<p>Impact: Availability / Security Severity: SPE</p> <p>全てのシステムに影響するシステムファームウェア変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 1時間に 1 回程度、電源ファンの回転が非常に低速になってしまう問題を修正しました。この問題が発生すると、温度異常により電源ユニットが停止する可能性があります。 Live Partition Mobility (LPM)が停止し、パーティションの移動により、移動先サーバの時刻が不正になる問題を修正しました。この問題は、移動先サーバのハイパーバイザの時刻が、移動元サーバの時刻より遅い場合に発生します。 I/O デバイスとの応答遅延やタイムアウトが起きる可能性がある問題を修正しました。 同時に実行されている複数のリソースダンプが、ダンプのバッファ領域を使い果たした場合、ハイパーバイザのタスクが失敗し、LPAR に対する操作ができない問題を修正しました。 LPAR の停止、またはリポートを行っている間、イーサネットアダプタの不必要なリセットが起こる問題を修正しました。このリセットにより、リセット回数の閾値を上回った場合、ネットワークスイッチがイーサネットのリンクを無効にする可能性があります。 HWMC とサービスプロセッサ間の通信にかかわる、複数のセキュリティ脆弱性の問題を修正しました。 <p>一部のシステムに影響するシステムファームウェアの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、IPL 中にコード C7004091 を表示してハイパーバイザがハングアップしたり、I/O ドロウの保守作業中にハングアップしたりする問題を修正しました。 VIO Server(VIOS)を使用しているシステムで、クライアント LPAR 間で物理的な I/O リソースを共有している場合、仮想制御ブロックのページ移行中に、メモリ再配置エラーにより、エラーコード B700F103 でサーバが停止する可能性がある問題を修正しました。 メモリミラーリングを使用し、かつミラーリングの最適化ツールを使用している場合、logical memory block (LMB)の内容が再配置中に、メモリの回復不能なエラーが起きると、予測不能な動作をする可能性がある問題を修正しました。 拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、I/O ドロウの電源ユニットの交換中に、誤って Voltage Regulator Module (VRM)の障害を報告し、エラーコード 10001511 および 10001521 を記録する問題を修正しました。この問題が発生すると、I/O ドロウの電源ユニットが起動しなくなります。 複数のブートパーティションを持つディスクデバイスがあるシステムで、System Management Services (SMS)で 1 つのブートパーティションしか表示しない問題を修正しました。

AL740_121_042	<p>Impact: Availability Severity: SPE</p> <p>全てのシステムに影響するシステムファームウェア変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ L2キャッシュエラーが同一プロセッサで2回発生すると、2回目のエラーを検知してシステムが停止する問題を修正しました。 ・ 回復可能なエラーにもかかわらず、エラーコード B113E504 を表示してシステムが停止する問題を修正しました。 ・ VIOS 2.2.2.0 以降のシステムへパーティションの移動を行っている間、移動されるパーティションがリポートする問題を修正しました。また、これより古い VIOS バージョンのシステムへ移動する場合、手動でパーティションのリポートをする必要があり、移動のリカバリも必要になる場合があります。 ・ アンカーカード(VPD カード)のデータが破損し、エラーコード A70047xx が記録される問題を修正しました。このアンカーカード異常が発生した場合、次の IPL が失敗する可能性があり、これを防止するために交換が必要ですが、システムファームウェアを更新しない限り、交換後のアンカーカードも再び異常となる可能性があります。 ・ 休止していたパーティションの再開処理中に、状態を格納していたページングスペースとの接続が切れた場合、再開処理がハングアップする問題を修正しました。 ・ ミラーリングしているメモリのデフラグメンテーション中に、アドレス不正によるエラーを検知し、システム停止する問題を修正しました。 <p>一部のシステムに影響するシステムファームウェアの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、ドロウの電源電圧レベルの異常をエラー報告せず、電源の冗長性が失われたことを検知できない問題を修正しました。 ・ 拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、電源システムの異常によりドロウ内のリソースが使用できなくなる問題を修正しました。 ・ run-time abstraction services (RTAS) が、エラーのリカバリ中にイーサネットアダプタのリセットに失敗し、ネットワーク接続できない状態となる問題を修正しました。 ・ 拡張装置 (THE-C7001FC5802 I/O ドロウ) が接続されているシステムで、I/O ドロウの電源ユニットの障害が、電源ユニットのマイクロリセットや、電源ユニットの交換で回復したにもかかわらず、障害を報告し続ける問題を修正しました。 ・ LPM の操作を行っているシステムで、メモリークにより、run time abstraction service (RTAS) が、エラーコード 0c20 でパーティションランタイムの AIX のクラッシュを引き起こす問題を修正しました。
AL740_100_042	<p>Impact: Availability Severity: SPE</p> <p>全てのシステムに影響するシステムファームウェア変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サーバのファンが高速で回転し、内部の温度センサの誤った校正値によって、システムブート中にサービスイベント (SRC B130B8AF) が生成される問題を修正しました。 ・ SRC B170E540 でシステム・クラッシュの原因となった問題 ・ 乏しい構成のパーティションを扱うライセンスの無いコアを持つサーバをリブートした後で、コンフィグレーションのイニシャライズ操作が HMC から行われたときに、アフィニティマネージャが動作するようにファームウェアを修正しました。 ・ SRC B1xxE504 (MCFIR[14] - Hang timer detector) が記録されたとき、問題のある FRU を正しく診断するように修正しました。 ・ I/O ハブでリカバードエラーが採取された後、システムがクラッシュする問題を修正しました。 ・ ブート中に SRC B181C803 (WIRE_PROC_CST_HW_FAIL) のエラーが記録されたときでもブートを継続するように修正しました。 ・ パーティションのサスペンドに失敗する問題を修正しました。 ・ 回復不能なエラー SRC B7000103 (ErFlightRecorder) でスタックが失敗し、システムがクラッシュする問題を修正しました。 ・ オペレーティングシステムが動作する前の特定の条件で、レートの高い外部の割り込みが若干の間受け入れられない問題を修正しました。 ・ システムにすでに搭載されている DIMM より容量の大きい DIMM を追加したとき、DIMM がデコンフィグされ、SRC B123E504 が誤って採取される問題を修正しました。 ・ リモートでリスタートできるパーティションを作成した後、そのパーティションのページングデバイスがオンラインであっても、ブートモードやキーロック設定ができない問題を修正しました。 ・ Dedicate 設定のプロセッサがあるパーティションを、Live Partition Mobility (LPM) を行った後にリブートすると、SRC BA33xxxx でハングする問題を修正しました。 ・ サービスプロセッサにラップトップを接続したとき、コントロールパネル上で、サービスプロセッサの eth0 または eth1 の IP アドレスが "IPv6 NA" に変わる問題を修正しました。 ・ 仮想ファイバチャネルテープドライブからのブートが SRC B2008105 で失敗する問題を修正しました。 ・ SRC B15xF109 を採取する前提条件の閾値 (サービスプロセッサ上でソフト的な NVRAM エラー発生回数) を変更しました。 ・ アンカー (VPD) カードの交換後、アンカーカードの交換を要求する SRC A70047FF (infomational) が誤って記録される問題を修正しました。

	<ul style="list-style-type: none"> ▪ HWMC で運用するシステムで、HWMC から“lsstat”コマンドを実行すると、vlan インタフェース上の送受信パケット数を誤って高い値を表示する問題を修正しました。 ▪ パワーオフ状態のスロットがあるパーティションで、DLPAR を行った後にシャットダウンしたとき、パーティションがハングする問題を修正しました。 <p>一部のシステムに影響するシステムファームウェアの変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ Hardware Management Console (HWMC)を使用するシステムで、Advanced System Management Interface (ASMI)のアクセスに Internet Explorer (IE)を使用した場合、ASMI でネットワーク関連のパラメータの変更後、IE が約 10 分間ハングする問題を修正しました。 ▪ 検知できない N-mode の安全性の問題と、FC5802 I/Oドローの電源サブシステムで報告されるエラーを修正しました。 ▪ Advanced System Management Interface(ASMI)メニューで、Field Core Override option によりデコンフィグされたプロセッサコアの表示をよりわかりやすくしました。 ▪ 稼働中のファームウェアインストールやパーティションで lsvpd を実行したときなど、操作中にハングする問題を修正しました。
AL740_077_042	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 新規リリース

株式会社 日立製作所 ITプラットフォーム事業本部 2020年3月

(c) Hitachi, Ltd. 2020, All rights reserved.